

## 7. ジャグリングで障がい者の余暇を充実する取り組み

橋本高志

### ①活動の目的

消極的になりがちな障がい者の余暇生活を、「ジャグリング・バルーンアート」を通じて充実につなげる取組。

多様な楽しみの方のあるジャグリング・バルーンアートと言う活動で、「生きがい」「自己肯定」「交流」「社会参加」につなげていく。個々が楽しみを持ち、その楽しみを共有したり、笑顔で交流することで、参加してくれた個人の幸福とインクルーシブな社会の実現に寄与することが目的である。

### ②活動概要

開催回数	ジャグリング練習会	計7回	バルーンアート練習会	計3回
	発表会	計3回	地域まつり参加	計3回
参加人数	障がい者 11名	健常者 8名		
	発表会入場者（生駒 新大宮 各30名程度・高の原夏祭り 延べ60名程）			
	生駒桜ヶ丘小学校 発表会&ワークショップ 児童100名程度			

#### ・ジャグリング練習会

この助成で実施したジャグリング練習会は合計7回であるが、これを機会にジャグリングに興味を持ってくれた障がい者11名が継続的に練習会に参加してくれたのみならず、現在も週3~4日自主練習に取り組むメンバーもあり、ジャグリングの練習自体は参加者の趣味の一環として定着したと言える。講師としてセミプロで大道芸を披露している先生3名から無償で教えていただいたことで、個人の技術レベルも上がり、参加者は楽しむだけでなく披露する側になるきっかけとなった。

また会場については当初、公民館などの公共施設を考えていたが、橿原市香久山体育館での練習以外は、奈良市高の原を中心に広場や職場の多目的スペースを使わせてもらった。この広場での練習は、地域交流の絶好の場となり、開催場所近くの大学のジャグリングサークルの方から声をかけてもらったり、人の行き交いがある場での練習によって、精神障がいの参加者も人に見られることへの抵抗感が少なくなった。

#### ・バルーンアート練習会

この助成で実施したバルーンアート練習会は計3回である。ジャグリングに比べ、バルーンアートはワークショップでの盛り上がりはあるものの、「意外とバルーンアート用のバルーンが高い」「割れたときに音に過敏な方を驚かせることになる」とのことから趣味とし

て自主的に続けている方は1人である。ただ趣味として定着できた意義は大きいと考える。

・地域まつり参加

H28.7.23 と 7.24 奈良市平城第2ショッピングセンター夏祭りに参加。広場での練習中に交流を持った近くの大学のジャグリングサークルから声がかかり、急遽、2日とも飛び入りで舞台でのジャグリングを披露することとなった。舞台での披露にはスタッフ2名とメンバー3名が参加。以前は披露する事を尻込みしていたメンバーも舞台に立ち、見ず知らずの方々から盛大な拍手を貰うという経験を得ることができた。自分たちのジャグリングのレベルを自信に変えることができた出来事であった。また舞台終了後では、出店の前でデモンストレーションやバルーンアートなども披露。いい形で地域交流の場で自分たちの力を発揮できた。また H28.8.20 奈良市サントウンまつりでは、参加メンバーが出店前で演技を披露。人だかりができていた。

・発表会

H27.12.23 生駒たけまるホールで知り合いのみの発表会で発表。発表したのはスタッフ2名と参加者1名のみ。1分程度で基本技のみの披露だった。

H28.8.4 生駒市桜ヶ丘小学校学童保育からの依頼による発表会&ワークショップ。児童100名以上の前で障がいのあるメンバー4名と私で披露。3分から5分で各自得意なジャグリングを1人ずつ披露。その後ワークショップを開始。4グループに分かれてメンバーが中心講師としてそれぞれ児童にレクチャー、大盛況の中、終了することができた。この発表会は今回の取り組みを考える上で大きな意義をもたらす結果となった。

H28.8.27 新大宮にて福祉施設の演芸会に参加。30名ほどの参加者の前で出演者としてジャグリングを披露していた。

・活動の総括

今回の取り組みは、ワークショップに参加した11名の余暇のあり方に大きな影響を与えた。余暇の充実度は個人差があるものの、11名全員が日常的に活動を行っている点、うち5名は自分が楽しむ段階から、社会に参加する段階まで昇りつめることができた点は、大きく評価できる点である。このメンバーの中には、精神障がいや発達障がい、身体障がいの方もおり、人前での演技は企画したものの非常に厳しいのではないかと予想していた。それがこの取り組みの中で、自分の楽しみ・余暇の充実を生み出し、自己肯定感を増す中で、舞台の上で喝采を浴びる、大勢の子どもたちにその技を楽しく教えるという、当初の企画で考えていた以上の成果をもたらすことができた。さらに、小学校でのイベントでは障がいの有無を超えて、教える側と教えられる側が楽しく対等に地域交流している姿がインクルーシブな教育・社会の理想的な姿と考える。

貴財団について、今回の助成を受けて、目的を達成できたこと、目的以上の成果をいただいたことをこの場を借りて、深く感謝申し上げます。

・写真 (一部ぼかし加工をしております)



購入したジャグリング道具



購入したバルーン一式



購入したワークショップ備品



バルーンアートのワークショップ



ジャグリングのワークショップ



夏祭り 舞台での披露



発表会 新大宮



生駒 小学校での発表



各コーナーでの指導

③決算報告書

収入 大同生命厚生事業団助成金	100,000 円
自己負担金	713 円
収入合計	100,713 円
支出	
貸し出し用ジャグリング道具一式 (別添写真の通り)	30,412 円
バルーンアート道具及びバルーン一式 (別添写真の通り)	27,684 円
ワークショップ用備品 コンテナ 大 2 個 3,990 円×2 個 水分補充用ジャグ 2,580 円 (別添写真の通り)	10,560 円
会場使用費	8,230 円
生駒たけまるホール 小ホール 午後 4,940 円×1 回	
橿原市香久山体育館 アリーナ 午後 3,290 円×1 回	
交通費	15,020 円
高の原からの移動	
・香具山体育館 3 名往復 (近鉄電車片道 440 円 バス片道 170 円)	
・生駒市たけまるホール 5 名往復 (近鉄電車 片道 300 円)	
・生駒市桜ヶ丘小学校 7 名往復 (近鉄電車 片道 300 円)	
・新大宮 演芸会会場 8 名往復 (近鉄電車 片道 260 円)	
チラシ代	8,807 円
・用紙代 500 枚 497 円	
・プリンターインク代 3,510 円	
・送料 20 ヶ所×2 回×120 円	
支出合計	100,713 円